

論文番号 139

担当

札幌医科大学 医学部 薬理学講座

題名(原題/訳)

Expression of p53 protein related to smoking and alcoholic beverage drinking habits in patients with esophageal cancers.

食道癌患者の p53 蛋白質の発現は喫煙やアルコール飲料摂取習慣と関係している

執筆者

Kato H, Yoshikawa M, Miyazaki T, Nakajima M, Fukai Y, Tajima K, Masuda N, Tsukada K, Fukuda T, Nakajima T, Kuwano H

掲載誌(番号又は発行年月日)

Cancer Lett 167(1): 65-72 (2001)

キーワード

アルコール摂取、食道癌、喫煙、p53 蛋白発現

要旨

食道扁平細胞癌(SCC)における p53 蛋白発現と臨床病理的因子や種々の危険因子(喫煙、アルコール摂取、癌発症の家族歴)との相関について、免疫組織化学的に検討した。免疫組織的に検索した食道癌 89 症例の 55.1%で p53 蛋白の発現が認められた。p53 の発現は性差、年齢、組織学的癌段階、リンパ腺転移、TNM 期などの因子とは相関しなかった。p53 蛋白発現の状態は多発原発性食道癌の患者で有意に高かった($P < 0.05$)。p53 発現は生存率分析での予後とは相関しなかった。喫煙あるいはアルコール摂取のいずれかの習慣のある食道癌患者での p53 蛋白発現確率は 4.67-5.83 倍高かった。一方、喫煙とアルコール摂取習慣が両方ある食道癌患者での p53 蛋白発現確率は 14.0 倍高かった。しかし、p53 発現と癌発症家族歴との相関は認められなかった。これらの結果から、喫煙とアルコール摂取習慣は食道癌発症における p53 変異と高い相関を有していることが示された。